

コロナ禍を乗り越え、挑戦する。

一年間に亘って連載した「福山になくならない業界事情」前号でいったん終了としましたが、新型コロナウイルスの感染拡大はいまだ収まらず、苦境に喘ぐ業界は少なくありません。そこでPart2という形で装いも新たに連載を継続することにしました。

Part2

●福山になくならない業界事情

その第1回はコロナ禍で最前線に立つ医療業界を取り上げます。福山市医師会は行政と連携しながら、会員挙げて市民の安心安全のために奮闘されており、児玉雅治会長に医師会の取り組みについて聞きました。またワクチン接種に積極的に取り組まれている医療法人達磨会井上病院(福山市東深津町)の井上文之理事長にも思いを聞きました。



一般社団法人福山市医師会
会長 児玉 雅治 氏
◎会員数 644 会員内医療機関数 228
(令和4年3月31日現在)

新型コロナウイルス感染症は二年前の1月に国内初の感染者が確認され、2月になってから横浜港に停泊した大型クルーズ船内での集団感染を経て、新規感染者が増加していった。児玉会長は「初めのうちには長期にわたる話にはならないかもしれないと思っていった」と当時を振り返る。しかし、感染拡大に備え、医師会として情報収集に努めた。

福山市内でも徐々に感染者が増加。会員に協力を呼び掛けた。「昨年暮れの第5波の頃が一番大変だった」と話す。会員は前向きに協力してくれたとはいえ、医療機関によって協力できる範囲は異なる。「いろいろな意見がある中で少しずつでも、一人でもいいから可能

医療体制の維持に尽力



一般社団法人福山市医師会
福山市三吉町南二丁目11-25

な限りの協力をお願いした」という。

ワクチン接種でも行政の要請に基づき、人練りの調整も行った。医療機関での個別接種はもちろん、福山市が開設した集団接種会場、福山商工会議所が実施した職域接種では福山市三吉町南の医師会館を会場とした。いずれも医師会の協力がなければ、作業は円滑に進まなかった。

医師会が運営する夜間成人診療所・小児診療所はコロナ禍でも開設。発熱の症状がある人が来所するのに備えて対策も講じた。児玉会長は「二年間、これまでにない対応を迫られた。災害のように、先が

ワクチン接種の最前線に立つ

呼吸器外科などが専門の井上病院には連日、ワクチン接種を受けに多くの人が来院する。「一日250人以上。最も多かった日は650人が来院した」と井上理事長。新規感染者が増え「当初は診察を考えると考えていたが、一病院で対応するのは難しい。だがワクチン接種には協力できると考えた」と話す。ワクチン接種を開始して一年余りが経過。接種回数は延べ3万回を超えたそうだ。

井上理事長も自ら接種の現場に立つ。「医者になって40数年。こんなにたくさん注射を打ったのは初めて」と笑う。

ワクチン接種に積極的な背景にはコロナ禍に対する井上理事長の強い危機感がある。「感染が広がる当初から危機感を持っていった。私は今68歳だが、68年生きてきて(コロナ禍は)日本の最大の危機だと感じている」と話す。「コロナを抑えるにはワクチンしかない」として「一日でも早く、一人でも多く」との思いを病院全体で共有している。

医療法人達磨会井上病院
理事長 井上 文之氏
◎職員数 86名 ◎許可病床38床



医療法人達磨会 井上病院
福山市東深津町三丁目23-46

常は入院患者は満床だが、一時は半分以上になったことも」という。また、感染拡大に伴い、社会のデジタル化が進展した。「当院もオンライン診療はしているが、スマートフォンをきちんと操れる患者さんは少ない。あくまで診療は人が相手」と対面診療が基本であると強調する。

新規感染者は高止まりで推移している。「(ワクチンの)四回目接種をやった方がいい」と話す井上理事長は、コロナ終息に向けて「一人でも多くの人にワクチンを」と今日も奮闘している。

(取材・文 当所広報アドバイザー 塩田 聡)